

武庫川女子大学大学院

臨床教育学研究科

男女共学

修士課程 / 夜間開講

博士後期課程 / 昼夜開講

さまざまな入試制度

- 個別入学資格審査
- 現職教員・対人援助職特別選抜

仕事と学びの両立支援

- 長期履修学生制度
- 中央図書館21:30まで開館
- 保育ルーム利用可

入試説明会

6/18(土)

学術講演会 終了後
16時開始予定

11/12(土)

臨床教育シンポジウム 終了後
16時開始予定

オープン
キャンパス

6/19(日)

11/13(日)

詳しくは
臨床教育学研究科ホームページで
ご確認ください。
<http://rinkyoh.mukogawa-u.ac.jp/>



複合的な視点からの 研究が可能に！

一人一人の問題意識を
3領域の教員が総合的に指導します

大きな社会変化に伴い、子どもを取り巻く環境は急速に変容しています。子どもの育ちをサポートする大人たちも、その変化に対応すべく、教育や支援のあり方を模索してきました。その過程で、不登校児に対する教育・支援にしても、教師や学校だけで、あるいは教育学の観点のみから児童・生徒らの状況を理解し、対策をたてることは難しく、多様な職種（カウンセラー、ソーシャルワーカー、医療機関、行政等）と学問領域（心理学、福祉学、精神医学等）から複合的な取り組みを行う必要性が分かってきました。

このような取り組みは、今日では当たり前になっていますが、“臨床教育学研究科”では1994年より、教育学・心理学・福祉学からなる学際的・複合的なアプローチを先駆的に採用しました。さらに、“臨床”の場で子どもを支援する様々な専門職が集まり、経験を活かしながら多角的に事例を検討し、理解し合うことを目指して、働きながら学べる夜間制大学院としてのです。その後、社会人学生からの様々な要望を受け、学校のみならず福祉や医療の現場

で活動されている“対人援助職”の方々にも対応できるようカリキュラムの改善に努め、今日に至っています。よって、本研究科で学ぶ社会人は、学校や保育関係者の他、心理職や福祉職、看護職、さらには司法関係者にも広がっており、専門職種での議論や学び合いが修了生の満足につながっています。

四半世紀を越える歴史をもつ臨床教育学研究科では、499名の修士課程修了者を輩出し、博士号取得者は76名を数えます（2021年度末時点）。今後とも、学際的な観点から、“対人援助職”の皆さんが抱える課題をともに考え、専門領域を超えて学び合う環境を整えとともに、最新の学術的成果を取り入れながら、社会のニーズに応える教育を進めてまいります。

皆さまとともに学び合えますことを、研究科教員一同、楽しみにしております。

武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科
研究科長 安東 由則

求める学生像（アドミッション・ポリシー）

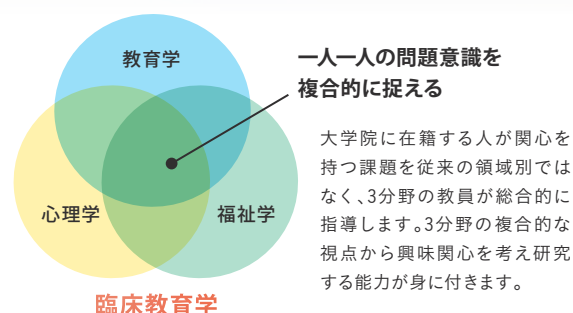
主として学校教員、福祉などの専門機関や施設、病院、企業、行政などで対人援助にかかわる専門職にあり、教育学、心理学、福祉学の各分野から、乳幼児から高齢者までの各ライフステージにおける、発達・適応援助に関する理論的・実践的・臨床的研究を志す者を求めます。実践現場からの視点だけでなく、総合的・学際的な専門知識と実践能力を身につけ、修了後も引き続き現場でその能力を発揮しようとする者を歓迎します。

教育課程の特色（カリキュラム・ポリシー）

「教育学」「心理学」「福祉学」の3関連分野からなる教育課程が編成されています。「臨床教育学総合演習」では、受講生の現場での問題に対して、3分野の教員がそれぞれの視点からスーパーバイズする、複合的な学習を試みています。

必修科目の「実地研究」では、指導教授ごとに任意の臨床現場を見聞し、学生自らの経験と対照させながら議論することで、現場への理解をより深めることを目指します。

臨床教育学の概念図



取得可能な資格

専修免許状が取得できます！※1

- 幼稚園教諭 ■ 小学校教諭
- 中学校教諭※2 ■ 高等学校教諭※2 ■ 養護教諭

※1 当該免許状に係る各校種、各教科の一種免許状を有し、修士課程において必要な科目及び単位数を取得すること。

※2 ほとんどの教科に対応します。詳しくは募集要項かHPをご覧ください。



専攻分野

本研究科は臨床教育学研究科として全国で初めて設立された大学院です。「修士（臨床教育学）」、「博士（臨床教育学）」と、臨床教育学を記した学位を授与する大学院は本研究科だけです。従って臨床教育学という新しい学問分野の開拓者、先駆者たる自負をもって、教員も学生も努力しています。本研究科修士課程においてはこの新しい専門分野の専門職の養成と再教育を主とし、博士後期課程においては高度な専門職養成に加えて研究者養成も行っています。すでに博士号を取得し、研究職として活躍している方も多数おられます。（この他、博士後期課程には、昼間開講の教育学分野と臨床心理学分野があります）



▲ ゼミの様子



▲ 研究発表

夜間制・主として社会人対象

修士課程と博士後期課程（臨床教育学分野）については、夜間開講を実施しています。1日2時限というカリキュラム上の制限があるので、土曜日の午後とも利用して授業を行っています。夜間開講は、有職の社会人の学ぶ意欲に応えるものです。有職の大学院生は、それぞれの職場での勤務を終えた後、大学院の講義や演習、特別研究（論文作成）などの授業に臨んでいます。社会人としての様々な経験や実践を踏まえながら、大学院で学び合うことで、新たな対人援助技能や高度な研究能力・教育能力の研鑽を行っています。

現在は、リモートでの授業参加も可能です。



▲ 授業の様子



▲ ゼミの様子

多様な学生による異文化交流

社会人を主とする本研究科の大学院生は、職業、職位、年齢、学修歴などにおいて、バラエティー豊かです。それぞれの職場での勤務を終えた後、午後6時10分から始まる授業に駆けつけ、熱心に臨んでいます。様々なライフ・ヒストリーをもった社会人たちが、大学院に自分たちの経験を持ち寄り、互いに交流することは、異職種・異文化交流ともなっており、幅広い視野、多様な情報、新鮮な刺激が得られます。こうした環境は、社会人学生はもとより大学からストレートで進学した学生や現場経験の浅い社会人にとっても、大きな刺激となっているようです。在学中に育まれた学生間のネットワークは、修了後も続いています。

学際的な教育と研究

本研究科は、複雑な教育問題や福祉問題、そして看護など医療現場における対人援助のあり方の解明にあたって、学際的な研究方法と教育課程を採用しています。

修士課程においては教育学・心理学・福祉学を三本柱としています。学生それぞれの関心や研究テーマを尊重しつつも、巨視的、学際的な視野から、アプローチする態度と能力を養うよう、カリキュラム工夫を行い、いわゆる「マニュアル人間」にならないよう配慮をしています。また上記3つの学問分野の他、教育調査・統計法、その他関連する分野についても講義を提供しています。教師に限らず、家庭、地域、行政、病院、福祉施設、企業などの対人援助職にとっても、学際的アプローチは極めて重要であり、本研究科はこのような対人援助の実践家やその志望者の入学を歓迎しています。

臨床的研究の場

本研究科の重要な教育課程の1つとして、臨床教育学にとって不可欠な臨床経験の場の提供があります。その代表は「実地研究」です。臨床教育学という性格上、臨床現場での経験は「臨床の知」を得るためにも、臨床の技法をレッスンするためにも不可欠です。有職の社会人学生にとって、自らの職場は最も身近で切実な問題発見、臨床活動、研究対象となり得ますが、本研究科では多くの「実地」への参加、その観察や分析のための場を用意し、そこでの実地研究が行われています。

その他

本研究科は、幼・小・中・高等学校の教員一種免許状の所持者がそれぞれの教科の専修免許状を取得できる「課程認定」を文部科学省から受けています。また、臨床教育研究懇談会や小講演を実施して、学内外の専門家の講義と意見交換の場を設けるとともに、学外の専門家による学術講演会、臨床教育シンポジウム、国際セミナーなどを毎年開催しています。教員や学生の論文発表のため、「臨床教育学研究」や「臨床教育学研究科研究誌」を発行しています。



学生研究室



情報処理演習室



図書資料室



研究科長

教授

安東 由則

教育社会学

様々な職種、年齢の社会人が夜間の授業に集まり、互いに学び合っています。教員よりも年長の方もおられ、社会人経験が豊富な方も多く、教員としても刺激を受け、学ばせてもらっているというのが正直なところです。もちろん社会人経験の浅い方も大歓迎で、教員ばかりからではなく、幅広い学友から触発されることも多いと思います。授業見学の機会もありますので、気軽にお越しください。

教授

押谷 由夫

道徳教育学
教育学
臨床教育学

「あなたの悩みは何ですか」と問いかけられて、何と応えられるでしょうか。どのように応えられようと、それはあなたの生き方とかわっています。道徳教育とは、その生き方を人間としての在り方や生き方という視点から深く考え、子どもたちはもちろんのこと、あなた自身の未来を拓いていくものなのです。私は臨床教育学の基盤に道徳教育があると確信します。道徳教育を基盤とした臨床教育学を皆さんと一緒に創っていこうではありませんか。

教授

森脇 健夫

臨床教育実践学
教師論

「よい理論ほど実際に役に立つものはない」(クルト・レヴィン)の意味を皆さんと一緒に考えてみたいと思っています。私はこれまで、多くの学校現場を訪れ、教師が授業改善を行っていく現場に立ち会ってきました。初任教師から熟練教師まで、それぞれ抱える問題は違えど、実践者に寄り添って問題解決しようという心がけてきました。研究者に何ができるのか、自問自答しながら、実践現場、また教師の発達の事実に基づいた理論(仮説)を構築してきました。そうした試みをこれからも皆さんとともに続けていきたいと思っています。

教授

河合 優年

発達臨床心理学
発達援助学
発達行動学

当研究科(修士課程)は夜間で、主として社会人を対象に設置されています。ゼミ生には、学校・幼稚園などの先生、看護師などの医療職、弁護士などの司法関係者、子育て支援関係者、福祉施設関係者、そして学部からのストレートマスターなど、さまざまな領域の方々が進んでいます。さまざまな視点からの意見を交換できる私どもの大学院の門をたたいてみてください。

教授

中井 昭夫

発達行動小児科学
小児精神神経学
臨床発達心理学

発達とは、遺伝的素因と胎児期からの身体性を介した環境との複雑な相互作用の連続的な変化なのですが、この環境の中には、いつ、誰と、どんな出会いをするかということも含まれます。当研究科で、子どもとご家族、支援者を支えるひとりの大人として、リサーチマインドと高い専門性をもつジェネラリストに、そして、多職種・多施設によるリエゾン(連携)支援のために、繋がる力、繋ぐ力を身につけて欲しいと思っています。

教授

倉石 哲也

ソーシャルワーク
児童家庭福祉論

臨床で起きていることを学問するためには、理論的な裏付けやデータ分析などが重要ですが、最も大切なのはパッションではないでしょうか。臨床の場で困難を抱えている人の代弁者になり社会を少しでも良い方向に変えていく、といったパッションです。臨床教育学は、当事者の立場に立った、真摯な学問だと考えています。
No Passion, No Life!

准教授

中尾 賀要子

ソーシャルワーク
老年学

世の中には色々な人がいて、様々な考え、価値観、信条があります。みなさんが興味を持っている社会問題について、今まで交流したことなかった異業種の方々と意見を交わし、理解する機会を設けてみませんか。日本社会の枠組みを超えたグローバルな視点を得る学術的な時間、また人として深みを増し、自己の成長を感じるひとときを大学院で共有してください。

修士課程と博士後期課程「臨床教育学分野」(夜間)を担当する専任教員のみを掲載しています。

博士後期課程「教育学分野」「臨床教育学分野」(昼間)の教員については、臨床教育学研究科ホームページをご覧ください。



教室



ラウンジ

授業見学(予約制・無料)

大学院の授業に対して不安を抱かれている方もおられますので、授業の様子を知っていただくため、授業見学を実施しています。教員、在学生ともに歓迎いたしますので、気楽にお申し込みください。

2022年度 前期	月	火	水	木	金	土
6限目 18:10~19:30 担当者名	生徒指導特論 押谷 由夫	学校臨床学特論 中井 昭夫	教育問題特論 森脇 健夫	臨床福祉学特論Ⅰ 倉石 哲也	子ども・家庭福祉学特論 学校と子どもの心理 倉石 哲也 森脇 健夫	3限 14:00~15:20 臨床教育学特論 森脇 健夫
7限目 19:40~21:00 担当者名	教育社会学特論 安東 由則	発達臨床心理学特論 河合 優年	現代教師特論 森脇 健夫	心理アセスメントの 理論と実際 中井 昭夫	人間・社会福祉学特論 現代教師特論 倉石 哲也 森脇 健夫	4限 15:30~16:50 臨床教育学総論 森脇 健夫

2022年度 後期	月	火	水	木	金	土
6限目 18:10~19:30 担当者名	道德教育学特論 押谷 由夫	教育心理学特論 河合 優年			障害児・者の教育と心理 中井 昭夫	3限 14:00~15:20 現代子ども理解特論 森脇 健夫
7限目 19:40~21:00 担当者名	人権教育学特論 押谷 由夫			特別支援教育特論 中井 昭夫	社会調査法 中尾賀要子	

※授業は対面とリモートの併用で行っています。

お申し込み方法

見学希望日の10日前までに右記
QRコードからお申し込みください。



受付期間

前期 4月4日(月)~7月9日(土)

後期 9月5日(月)~12月23日(金)

なお、学内行事等により休講となる日や、授業進行上ご参加いただけない日もございます。ご了承ください。

オープンキャンパス

日時	2022年6月19日(日) / 11月13日(日) 両日 12:30~16:30	会場	中央キャンパス 研究所棟3階 304室・306室
内容	第1部・・・研究科の説明会、体験授業、在校生・修了生の声 第2部・・・個別相談、研究発表等展示ブース		

オープンキャンパスの
詳細と申込はこちら▶



学生メッセージ

他領域を学び視野を広げ、研究方法を学ぶために進学したが、発想の転換や視野を広げることの大切さを学びました。(助産師/50代女性)

論文の読み方、書き方を教わり、教育や福祉、コミュニケーション等について臨床教育学での視点で学ぶことができました。(大学教員/50代女性)

教育、心理、福祉の面での学びを通して、自分の課題が相対的に明らかになり、違ったアプローチが考えられます。(幼稚園教諭/40代女性)

大学院の学びは“目からうろこ”のことが沢山あり、他職種の人がいるからこそその学びや気づきが多かったです。(看護師/50代女性)

大学院の学びを振り返って

丁寧な指導、教育が受けられ、苦手なりモット授業にも慣れることができ、クラスメートとの交流で友人もできました。(ケースワーカー/60代男性)

就労しつつの学業は大変ですが、知見を広げ研究の手法を学ぶ目的は達成できました。日頃実践していることの意味付けともなり、自信にもなりました。(看護師/40代女性)

受験生へのメッセージ

修士論文は大変でしたが、視野と交流が広がり充実感もいっぱいです。これから進む道の礎となりました。(大学教員/40代女性)

始めは続けられるか心配でしたが、要領がわかり自分の生活に合わせた履修をすると気持ちよく進めました。社会人には優しい研究科です。(大学教員/50代女性)



STUDENT'S VOICE

在学生・研究生インタビュー(2021年度 在学生)



居心地がよく、
充実した研究環境が
最大の魅力。

研究生
山之内 優子さん(看護師)

当大学院の先生方は、人として
対等であり共に学ぼうとされる方
ばかりです。その環境下での研究
活動が本当に居心地よく、このま
まここで学び続けたいと修士課程
修了後、研究生として大学院に残
りました。修士論文のテーマは「発
達障害をもつ看護師の語り」で、
働き出してから発達障害と診断さ
れた3人の看護師の方にインタ
ビューを行いました。現在もその
テーマに取り組み、並行して福祉
施設で訪問看護の仕事を手掛け、
仕事と両立しながら研究に取り組
める喜びを日々実感しています。



職業や年齢の違う「同期」との
学びが楽しく、刺激的。

修士課程2年生
中谷 香さん(看護教員)

看護教員としての今までの経験
をブラッシュアップする学びに取り
組めればと進学を決意しまし
た。大学院では、多様な職場の年
齢も立場も経験も違う方々と「同
期生」として一緒に学ぶことが
楽しいです。話をすることで視野
が広がるほか、少人数制のクラス
での講義や議論は、今まで経験し
た研修では考えられないほど「贅
沢」だと感じました。先生も親身に
ご指導くださり、大学院での時間
は普段のいろいろなしがらみや役
割から解放され、「学生としての学
び」を純粹に楽しめています。



興味のあったチーム医療の
多職種協働について研究。

修士課程2年生
池田 浩子さん(看護師)

看護教育に関わる前職の上司
に勧められたのが大学院進学を
考えるきっかけでした。仕事や家
庭との両立が心配でしたが、職場
で今まで気になっていたことにつ
いて研究したいと、転職を機に大
学院へ。チーム医療での「多職種
協働」を円滑にするための人間関
係やコミュニケーションに興味が
あり、現在は各職種の方にインタ
ビューを行うなどの調査を実施
し、データを集めているところで
す。長期履修制度を利用して3年
間かけて修了する予定で、今後研
究を深めていければと思います。



障害者でも安心で、
楽しく学びを追求できる環境。

修士課程1年生
藤原 奈津子さん(障害者支援相談員)

大学院では、いろいろな専門分
野で活躍する実践者が集まってお
り、他の学生さんとのやり取りの
中からもたくさんの学びを得るこ
とができます。私は視覚障害者で
すが、自分の障害を感じることも
なく、皆さんと同じフィールドで学
ぶことができていると感じていま
す。これは大学からの様々な配慮
と、他の学生さんたちが障害者で
はなく、一人の仲間として私のこ
とを受け入れてくれているからこそ
ではないかと思います。これから
もこの素敵な環境で、楽しく、自
分の学びを追求していきたいです。



授業で学んだ内容が
すぐに現場で応用できる。

修士課程1年生
玉井 美香さん(大学教員)

看護学生時代に学んだ『研究』
について、「自身の教育内容は古
いのではないだろうか」、「現在
の教育を学び直したい」との思い
から、大学院の進学を考えました。
臨床教育学研究科での学びは、す
ぐに活用させていただくことが
できる内容が多く、毎回の授業を
楽しみにしています。修士論文は、
「分かりやすい授業の工夫」に関
連したことを考えており、教育の
現場に貢献できる研究に発展さ
せることが目標です。



助産師教育の中で
技の伝承をいかに行うかを
追求する。

修士課程1年生
南田 理恵さん(法人代表・助産師)

助産所を運営し、行政からの委託
で虐待リスクの高い妊産婦への支
援を医療・福祉関係の専門職と連
携して行っています。より良いケア
のために医療面はもちろん、心の問
題や福祉についての知識が必要であ
ると感じ、大学院に進学。授業では、
対人職種の臨床現場にありがちな
コミュニケーション技術や誤解の心
理学なども学べ、教わったことはス
タッフにも共有しています。修士論
文では助産師の技の歴史の文献を
調べ、「技の伝承を現代の助産師教
育の中でどのように行っていくか」を
明らかにしたいと考えています。

修士課程の入試案内

※詳しくは学生募集要項でご確認ください。

募集人員

研究科	専攻	募集人数
臨床教育学研究科	臨床教育学専攻	16名

出願期間(最終日消印有効)

前期募集	2022年9月6日(火)～9月16日(金)
後期募集	2023年1月16日(月)～1月26日(木)

試験

	試験科目	前期試験	後期試験
筆記試験	〔専門科目〕教育学、心理学、福祉学の3分野に関する論述問題	2022年10月1日(土) 10:00～11:30	2023年2月12日(日) 10:00～11:30
	面接	2022年10月1日(土) 13:00～	2023年2月12日(日) 13:00～

現職教員・対人援助職特別選抜

■ 対象者

- (ア) 出願時に保育所、幼稚園、認定こども園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、専修学校、短期大学、大学において、週3日以上勤務を2年以上継続している保育士・教員。
- (イ) 出願時に医療・福祉系の国家資格を取得・保持しており、かつ対人援助の職場で、週3日以上勤務を2年以上継続している者。

■ 「実践研究レポート」の提出をもって、専門科目の代替試験とします。面接は実施します。

個別入学資格審査(詳細については募集要項をご参照ください。)

4年制大学を卒業していない方でも、個別入学資格審査により大学を卒業した者と同等以上の学力があることが審査委員会で認められれば出願資格を得ることができます(ただし、2023年3月31日までに22歳に達しているもの)。

受付期間: 前期募集 2022年7月5日(火)～7月14日(木) ※書類提出は7月15日(金)まで
後期募集 2022年11月7日(月)～11月16日(水) ※書類提出は11月17日(木)まで

過去の入試問題

過去の入試問題は過去1年分のみ配布しています。

推薦入試について

武庫川女子大学を2023年3月卒業見込みの、教育・心理・福祉などの対人援助職を希望する者を対象とします。
出願期間、試験日は上記後期募集日と同一で、面接を実施します。

博士後期課程の入試案内

募集人員

研究科	専攻	募集人数
臨床教育学研究科	臨床教育学専攻	6名

出願期間(最終日消印有効)

募集	2023年1月16日(月)～1月26日(木)
----	------------------------

試験

	試験科目	日 時
筆記試験	臨床教育学(夜間)、教育学(昼間)、臨床心理学(昼間)の各分野より志望する分野を一つ選択(各分野の専門領域から出願)	9:00～10:20
外国語科目	英語(各分野共通問題) ※英和辞典持込可、電子辞書は不可	2023年 2月18日(土) 10:40～12:00
	口頭試問	13:20～

個別入学資格審査(詳細については募集要項をご参照ください。)

個別の入学資格審査により、修士の学位または専門職学位を有する者と同等以上の学力があることが審査委員会で認められれば出願資格を得ることができます(ただし、2023年3月31日までに24歳に達しているもの)。

受付期間: 2022年11月7日(月)～11月16日(水) ※書類提出は11月17日(木)まで

長期履修学生制度

2010(平成22)年度より、「長期履修学生制度」を導入しています。修士課程を最長4年間で、博士後期課程を最長6年間で履修計画することにより、仕事や家庭と学びの両立を支援します。

※ 長期履修の場合、修士課程では2年間の授業料、博士後期課程では3年間の授業料を在籍年数で割った金額が、各年の授業料となります。
詳しくは、お尋ねください。

臨床教育学研究科の行事(2022年度予定)

※行事については、場所や方法(オンライン等)が変更になる場合があります。
事前にホームページでご確認ください。

ホームページにつきましては
右記QRコードよりご覧いただけます。



学術講演会

6/18(土) 14:00~16:00
(受付開始13:30)

若者の孤立と社会的支援を考える



講師

古賀 正義 氏
中央大学文学部 教授

場所

未定: ホームページで
お知らせします

学術講演会と臨床教育学シンポジウム終了後、入試説明会及び個別相談を実施します。

その他の行事: 小講演会、臨床教育研究懇談会、国際セミナー、教師を語る会など

※行事の開催についてはHP <http://rinkyoh.mukogawa-u.ac.jp/> でお知らせしています。

臨床教育シンポジウム

11/12(土) 13:00~16:00
(受付開始12:30)

「たまりば」の実践から見てきた
コロナ禍における不登校支援の課題(仮)



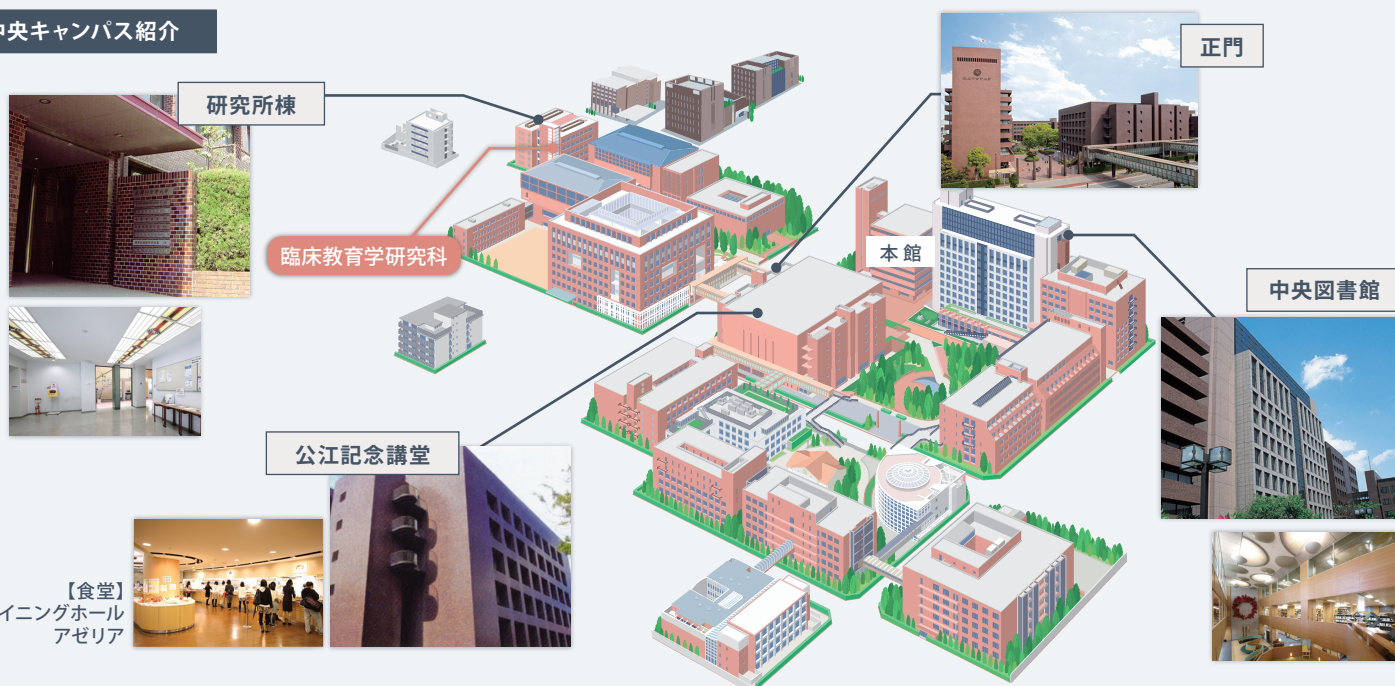
シンポジスト

西野 博之 氏
認定NPO法人フリースペースたまりば 理事長

場所

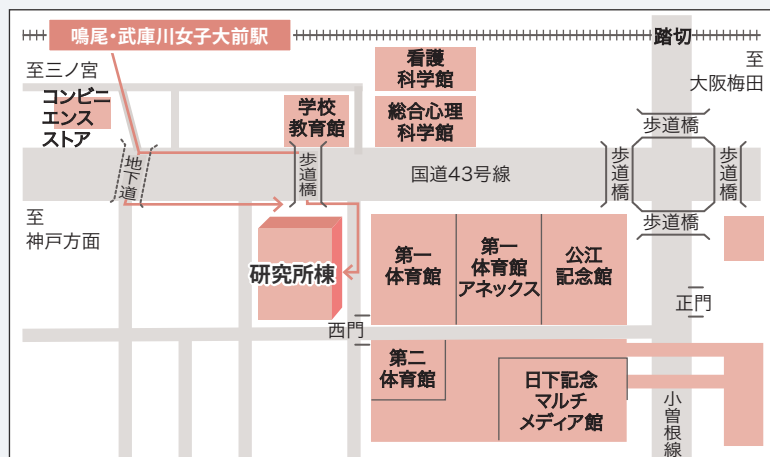
未定: ホームページで
お知らせします

中央キャンパス紹介



案内地図

阪神電車 鳴尾・武庫川女子大前駅からの経路徒歩約7分



大学内に保育ルームがあります

本学では、就学支援のために夜間大学院学生も利用できる
学院内保育ルーム(ラビークラブ)が設置されています。



詳しくは、男女共同参画推進室のホームページで確認してください。

<http://www.mukogawa-gsankaku.jp>

入試に関する
お問い合わせ

武庫川女子大学大学院 臨床教育学研究科

〒663-8558 兵庫県西宮市池開町6-46 TEL 0798-45-3500(入試センター)

<http://rinkyoh.mukogawa-u.ac.jp/>

資料請求

武庫川女子大学 <https://edusys.net/mukogawa-u/nyushi/shiryo/>